

令和7年3月19日

人吉市議会議長  
宮原 将志 様

総務文教委員長  
松村 太

### 総務文教委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について、調査内容を下記のとおり報告します。

#### 記

#### 1 所管事務調査事項（テーマ）

公共交通のあり方について

#### 2 調査目的

これからさらに超高齢化が進み、運転免許証の自主返納者数の増加が見込まれる。このような中、既存の公共交通の役割に期待される場所であるが、現状では公共交通の利用者数は低迷し、運行の維持にかかる財政負担は増加傾向である。路線バスや乗合タクシーなど、今後の公共交通の利便性アップ等のあり方についてどのように取り組んでいくべきか調査を行った。

#### 3 調査経過概要

##### （1）現状把握

##### ア 公共交通の現状把握

本市における公共交通に関する調査を行うため、担当課から公共交通の現状と課題について報告を受け、地域公共交通体系や利用状況、財政負担状況、取組状況、課題等を確認した。

この報告により、人口減少及び自家用車利用等により地域公共交通利用者が減少している、利用者数の減少及び運行単価の上昇等に伴い財政負担が増加している、運転免許返納者や一人暮らしの高齢者への移動手段の確保が必要であるなどの課題が明らかになった。

また、じゅぐりっと号・まめバス・乗合タクシーにそれぞれ個別課題があることや、地域間幹線系統の路線バスの見直し、情報提供の充実として地域公共交通マップの提供、交通系ICカード等のキャッシュレス決済の導入や乗り方教室等のイベント開催などの課題もあることが分かった。

## イ 調査項目の決定

公共交通全般を調査することになると広く浅い内容になってしまう恐れがあるため、調査項目を絞ることとなった。

協議の結果、調査項目をまめバスとした。

## ウ まめバスの現状把握と意見

担当課からまめバスの現状と課題について報告を受け、まめバスの概要や路線ごとの状況、今後について等を確認した。

委員から、次のような意見があった。

- ・新たにリニューアルするときには、まめバスの名称を変えたほうがいいのではないか。認知度の向上や、市民に名称を募集することで愛着も持ってもらう。また、ラッピングをすることで親しみが沸き、大きな利用促進につながる。
- ・乗車された方にアンケート調査を実施したらどうか。
- ・4路線を重ねたときに、市役所や駅、産交バスのターミナルなど重複している部分がある。また、周遊バスの中から各支線に乗り換えるルートの見直しなども検討してはどうか。

## (2) 先進事例の調査

### ア 岡山県津山市「コミュニティバスについて」(行政視察)

平成13年からコミュニティバス「ごんごバス」を運営されており、路線の再編、拡充、運行ダイヤの改善などを行い、利便性を向上されている津山市を視察した。

福祉的視点を取り入れたニーズの把握、乗り方教室などの利用促進策やキャッシュレス決済化などの整備と併せ、運行形態の見直しが行われていることを確認した。

委員からは、本市もニーズをつかんで周知徹底を行うことで前に進む、地域公共交通を導入する場合は目的が重要であり目的を明確にして市民に伝えることが大事である、地域の意見を取り入れ会話をしながら進める必要があるなどの所感が出された。

### イ 福岡県朝倉市「公共交通について」(行政視察)

路線バス等の廃止代替施策として、事前予約型あいのりタクシーやコミュニティバスを導入し、交通空白地区の解消を図られている取組を視察した。

移動困難者である個人に向けた支援に重点を置いて、交通空白地区から町なかへの移動の乗り継ぎ回数減や乗り継ぎ地点の整備等の利便性向上を検証しながら施策が改善されていることを確認した。

委員からは、乗合タクシーやコミュニティバスを路線バスのバス停に接続することを検討していいのでは、本市もドアツードアを目指していただきたい、行政と交通事業者との話し合いだけでなく市民を取り入れた話し合いが必要であるなどの所感が出された。

## ウ 香川県丸亀市「公共交通について」(行政視察)

市町村合併により市域が変則的に拡大し、網羅的に整備した結果、町なかにも交通空白地区ができ、デマンド交通の有効性を検証する社会実験をされている取組とボランティアドライバーによる高齢者の移動支援事業の取組を視察した。

デマンド交通社会実験は、一つの学区内での移動手段の実験で、11か月の期間で校区内人口の1割程度の利用数であるが、利用満足度は高いという結果だった。また、高齢者移動手段確保事業は人材確保や経費とサービス体制の維持が課題で、そのためにニーズの的確な把握と最適なシステム構築などの検証が必要であることを確認した。

委員からは、本市にあった実証実験を行い、結果を見ながら進めていくのもいいのではないかと、利用促進策として75歳以上の方や様々なイベントなどで乗車無料にされていたので本市もそのような取組ができるのではないかと、公共交通の利用者が少ない地域にはタクシー券を助成する等の検討も必要ではないかなどの所感が出された。

### (3) 現地調査

#### ア まめバス乗車

まめバスの4路線(七地線・上原田線・小柿線・大柿線)に乗車し、運行ルート・乗車状況などを調査した。

後日の協議会で委員から、乗っている人がいない、発着時間を検討する必要がある、時間帯によっては便数を減らしたほうがいい、運行ルートの見直しを考えたほうがいい、ルート上に買い物等の日常生活に必要な箇所があったほうがいい、目的地に行くルートではなく市内に循環バスを回したらどうか、ルート上の地域の方や利用者アンケート調査を実施したほうがいいなどの意見が出された。

### (4) 意見交換会

#### ア 産交バス株式会社との意見交換

実務者である産交バス株式会社から、実務上の意見や課題を聞くために意見交換会を行った。

運行時間やルートの改編時期、本市との協議状況、収支等の運営状況、乗り方教室の実施状況などを確認した。

### (5) 提言に向けた協議

- ・各路線の沿線の住民や利用していない方へのニーズ調査が必要である。
- ・循環バスから各支線をつなぐルートも検討してほしい。
- ・市民の方にバス路線を分かりやすく提示することが必要である。
- ・使いたい時間帯のバス運行がない。運行時間帯の工夫が必要である。また、併せて運転手を確保する方法を考えることも必要である。
- ・高齢者の移動支援に関し、社会福祉協議会とタクシー事業者との折り合いがつかなかったことがあったので、市が間に入ることも必要かと思う。

・福祉的な観点から福祉関係者（民生委員等）にもアンケート調査なり聞き取りをしたほうがいいのではないか。

#### 4 提言

以上のような調査・研究を踏まえ、別紙「公共交通のあり方に関する提言書」を取りまとめた。

なお、本提言は本委員会の総意として議長へ提出する。

#### 5 総務文教委員会活動経過

令和5年	6月15日	協議会	所管事務調査事項について説明
	6月20日	協議会	所管事務調査事項（テーマ等）について協議・決定
	8月8日	委員会	市から公共交通の現状と課題について説明 今後の進め方について協議
	9月20日	協議会	市からまめバスの現状と課題について説明・協議
	10月18日	行政視察	視察先：岡山県津山市 テーマ：コミュニティバス（ごんごバス）について
	10月20日	協議会	行政視察のまとめ
令和6年	6月19日	協議会	これまでの振り返りと今後の展開について協議
	8月22日・23日・26日・27日	現地調査	まめバス乗車【七地線・上原田線・小柿線・大柿線】
	9月17日	協議会	まめバス乗車の意見・協議
	10月21日	協議会	産交バス株式会社との意見交換会
	10月22日	行政視察	視察先：福岡県朝倉市 テーマ：公共交通について
	10月23日	行政視察	視察先：香川県丸亀市 テーマ：公共交通について
	10月25日	協議会	行政視察のまとめ
	12月10日	協議会	提言について協議
令和7年	2月26日	協議会	提言書・報告書の文案について協議
	3月12日	協議会	提言書・報告書の文案確認

#### 6 委員名簿

委員長	松村 太
副委員長	池田 芳隆
委員	川上紗智子
委員	平田 清吉
委員	豊永 貞夫
委員	宮原 将志